

ろんぶ^んん

2019年2月7日放送：「服」

論文①「徳川家康所用服飾類の研究」

著者：福島雅子（学習院女子大学日本文化学科准教授）

東京芸術大学大学院 美術研究科 博士論文（2013年度）



左：論文プレゼンターのインパルス・板倉俊之さん 右：論文著者の福島雅子准教授



福島さんは江戸幕府初代将軍・徳川家康の服に着目し、現存する100点余りを研究。すると、政権を盤石なものにするために、服を利用した家康の“したたかな戦略”が明らかになりました。 右端：ゲストのIKKOさん

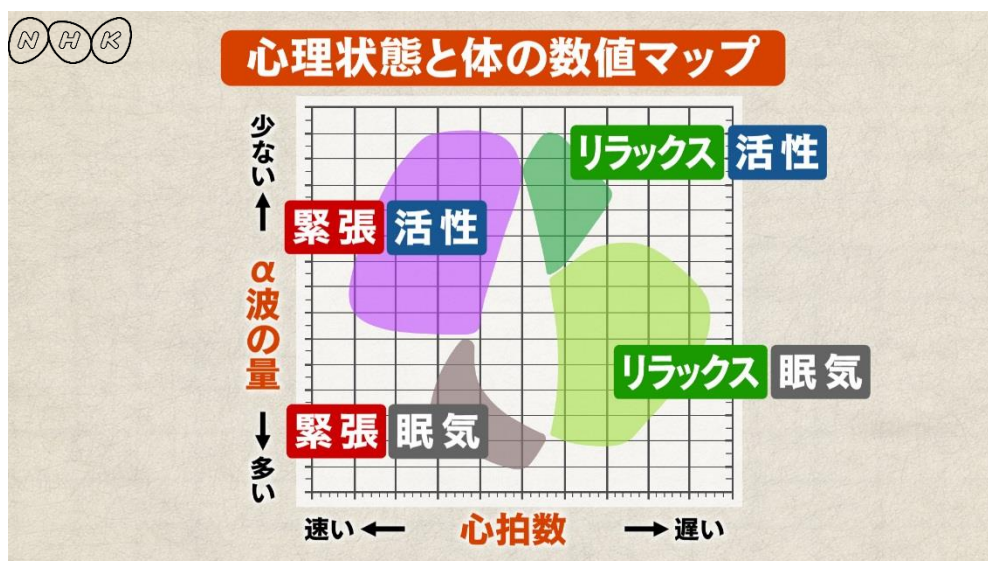
論文②「心理状態と生理計測値および触刺激との関係について」

著者：石丸園子 大手繊維メーカー快適性工学センター 研究所元部長

日本繊維製品消費科学会誌 47 巻 12 号 (2006 年)



右が論文著者の大手繊維メーカーに勤務する石丸園子さん。「着心地のいい服とは何か？」快適性工学という観点から、30年間、服の“着心地”を研究し続けてきました。



石丸さんは、従来の研究とは異なる視点から着心地のいい服を開発しようと、「人の心理状態」に着目。「リラックス」「緊張」「活性」「眠気」といった心理状態を、体の数値【心拍数・脳波（ α 波）】と結びつけることで、リラックスしやすい服など、新たな服作りを可能にする指標を作りあげました。